

マクロスケールにおける生態・進化・絶滅

田中泉吏
慶應義塾大学文学部

企画・司会：

田中泉吏（慶應義塾大学文学部）

提題：

平野弘道（早稲田大学教育学部理学科）

「地史学・古生物学に於ける大量絶滅の認識」

千葉聡（東北大学・生命科学研究科）

「多様性の階層構造のダイナミクス」

高橋昭紀（早稲田大学理工学研究所）・田中泉吏（慶應義塾大学文学部）

「断続平衡説：地質学と進化生物学をつなぐ懸け橋」

このワークショップでは、古生物学や群集生態学などのマクロスケールの生命現象を扱う分野にスポットライトを当て、そうした分野における認識や方法論を明らかにすることを通じて、生命現象をより包括的に理解するためには何が必要かについて議論を行いたいと考えている。

初めに、日本古生物学の泰斗で、大量絶滅を専門に研究をされている平野弘道氏に、地史学・古生物学における絶滅の認識の歴史（18世紀から現在まで）についてご講演していただく。そのなかでは、絶滅の原因に関する古今東西のさまざまな仮説が比較・評価される。

次に、古生物学出身でありながら、現在は小笠原諸島のユニークな生態系の成立過程の研究や、その保全活動で知られる千葉聡氏に、ミクロ（遺伝子）レベルとマクロ（群集・生態系）レベルのダイナミクスの相互作用についてご講演していただく。そのなかでは、最近の具体的な研究例を用いて、還元主義をめぐる伝統的な対立がいかに乗り越えられるのかが論じられる。

最後に、新進気鋭の古生物学者である高橋昭紀氏に、断続平衡説の再検討を通じて、地質学的時間スケールで生じる進化や絶滅のパターン、およびその背後にあるプロセスについての諸説に関する論考を発表していただく。また、氏のもう一つの専門分野である地質学（特に生層序学）の視点から、古生物学の方法論についても考察がなされる（この講演は田中泉吏との共同研究に基づく）。

ディスカッションにおいては、各分野の現状を理解したうえで、今後の生物学の基礎論的研究において考察されるべき重要問題を認識し、活発な議論を行いたいと考えている。